

みんなとともに笑顔いっぱい — 「学びあい」「認めあい」「高めあい」 —



# みんなとともに



昼休みに校庭に出てみたら、校庭がとても賑わっていました。鉄棒をする子、ジャングルジムに上る子、鬼ごっこをする子、雲梯をする子、ブランコをする子、サッカーをする子と、遊びはそれぞれです。ざっと数えてみると、全校生の半分以上は遊んでいるようです。もちろん休み時間の過ごし方はいろいろで構いませんが“太陽の光”に当たることも「健康」を保つための一つの要因かなと思いました。



## もし、「陽性者」が出たとしたら… [シミュレーション]

「新型コロナウイルス感染症」には、誰もが罹患するおそれがあります。これは「私」も「あなた」も例外ではありません。ですから、「陽性者」が出たとしても、その人（子）を責めるのではなく、治癒後には温かく迎え入れたいものです。また、学校ではそのように指導をしています。

### 【「陽性者」が出た時の保護者の方へのお願い】

- 1 授業を途中で打ち切り、児童を「下校」させることがあります。「安全安心メール」で連絡しますので「お迎え」をお願いします。
  - ・できるだけ、「徒歩」または「自転車」でのお迎えをお願いします。
  - ・どうしても「車」で来られる場合には、校庭南側の道路を、校庭へ「東方向」から入ってください。
  - ※「午後」の時間帯の場合は、直接自宅に帰す場合もあります。
- 2 「臨時休業」になることがあります。その間は、「自宅」で学習を行います。
  - ・「3日分の学習内容」を児童に伝えます。その後は、状況により対応します。
  - ・「タブレット端末」を持ち帰ります。家庭での「Wi-Fi」環境が必要です。
  - ※臨時休業期間中に「消毒作業」等を行います。
- 3 保健所から「PCR検査」の依頼があるかもしれません。そのときは、改めて連絡をします。
  - ・「PCR検査」の「検体」の受け取りは、「学校」で行う例が多いようです。
  - ・「濃厚接触者」は「陰性」でも、「濃厚接触をした翌日から起算して2週間」は「出席停止」です。
  - ※「個人が特定される情報」を学校からお伝えすることはありません。

※なお、「意図で情報を拡散すること」は、大きな「混乱」につながります。また、「差別・偏見」にもつながります。不安な気持ちは誰しもあるものですが、「落ち着いて」「平常心で」「温かい気持ちで」推移を見守っていただければ幸いです。

### 【全校集会で紹介した作文】

ほくのクラスはとてもなかのよい、自慢のクラスだ。だから、毎日学校に行くのが楽しかった。ある日、お父さんがコロナウイルスに感染したことが分かった。「家族はみんな、うつっているかもしれない」と言われ、ほくも検査をした。お医者さんに「コロナウイルスに感染しています。」と言われたときは、ショックだった。ほくは、しばらく、家から出ることができなくなった。ずっと家にいて、ほくは学校のみんなのことを考えた。「コロナがうつる」なんて言われたら、どうしよう。前みたいに、一緒に遊んでくれるだろうか。しばらくして、お医者さんに「明日から学校に行っているよ。」と言われたときは、とてもうれしかった。でも、とても心配になった。

次の日。久しぶりの登校日。ほくはドキドキしながら、教室に入った。教室はいつものようににぎやかだった。けれど、ほくの姿を見ると、一瞬、静かになった。「おはよう」勇気を出してA君に声をかけた。でも、A君は聞こえなかったのか、無視をして行ってしまった。Bさんは、ほくの姿を見ながら、友達とヒソヒソ何かを話しているみたいだ。

「やっぱり来なければよかった。」そう思っていた時、C君が近づいて来て、「元気だった？心配してたんだ。またいっしょに遊べるね。」と声をかけてくれた。ほくはうれしくて、涙があふれた。「ありがとう！」本当は「おはよう」と言うはずが、僕は思わず「ありがとう」と言ってしまった。教室の中が少し、あたたかく感じた。

### 【校長のつぶやき】 その71 「添削（てんさく）」

「校長のつぶやき その68『プレバト!!』」で、新聞の読書欄に俳句を投稿していると書いたが、なんと2回目に投稿した「俳句」が新聞に載った。

【掲載句】 春の夕水面大きくトラクター ※ 春の夕方、着々と田植えの準備が整っている様子に気づき、その感動を詠んだところが、である。何か違和感がある。改めて自分がつくった俳句を見てみた。

【投稿句】 トラクター水面に映える春の夕 ※「映える」を「大きく」へと変更してある、季語の位置が入れ替わっている。選者が添削して載せてくれたのだ。おそらく、目立つように「残っている年賀状」に書いて投稿した私の意欲を損なわないように、気をつかってくれたのだろう。でも、私の達成感「かなり」減少した。

これまで教員として、多くの子どもの作品を「添削」してきた。それは「よかれ」と思っていたことであるが、添削された子どもの気持ちが「ちょっとだけ」分かった気がした。そして次の目標は「直しナシ」である。